

Cryptocurrency



SNOW from HOKKAIDO, JAPAN

WHITE PAPER

# ABOUT YUKI

～現実社会に浸透する社会特化型仮想通貨を～

YUKI プロジェクトは仮想通貨 × 地方社会の実需をベースに、YUKI 発祥の地である北海道を中心としたモデル事業として展開し、その後全国・アジアへの更なる発展、新しい経済圏を構築することをコンセプトとしています。事業構想として以下の 3 本の事業を主軸とし、運営していきます。

- ① 第一次産業の活性化
- ② 地域活性化支援
- ③ 人材育成支援

YUKI は単体の仮想通貨ではありません。YUKI の真価は「YUKI プロジェクト」との融合により発揮されます。



# FUNDAMENTALS

～基本方針～

事業の初期段階においては、国内でも先進的な取り組みが多く、同時に人口減少等、様々な社会問題を抱える課題先進地である北海道の第一次産業や地域活性化に貢献することで新たな社会経済課題解決モデルを構築し、構築したモデルを日本全国の社会全体に普及させるため、積極的に提携先を増やしていきます。

YUKI を保有しコミュニティに参加することで、地域で意欲的に活動する企業の情報が手に入るだけでなく、受け手になりがちな消費者が双方向のコミュニケーションに参加することも可能です。また、YUKI を現実社会で利用することにより日常生活、旅行などをより充実したものにする事も可能となります。

YUKI は、大学の制度上これまで評価されることのなかった側面を評価基準に加えることを可能にし、優秀な学生などへの支援を容易に行えるシステムを構築して人材育成をサポートし、社会が求める人材を輩出します。

YUKI プロジェクトの特徴として、YUKI 保有者が誰でも YUKI の運営にビジネスプランを提案することができ、その案を実現する運営と YUKI 保有者の距離が近いコミュニティ形成を行います。

私たちは、早期の事業活動、また長期的なビジネスモデルの実現を念頭に、北海道発の企業として「株式会社 Currency Design」として法人登記を完了しています。



# TOKEN INFORMATION

## ~トークンの特徴~

トークン名：YUKI

トークン規格：ERC-223 (Ethereum based)

シンボル：YUKI

小数点以下桁数：8 桁

発行枚数：200 億

コントラクトアドレス：0x5AB793E36070F0fac928EA15826b0c1Bc5365119



YUKI は、Ethereum ネットワーク上で展開する ERC-223 規格トークンとして発行します。Ethereum ネットワークを採用した理由は、仮想通貨経済圏で最大規模である Ethereum トークン経済圏が、「現実世界での実利用」を理念に掲げる YUKI の利用可能性を最大に高めると考えた結果です。

また、トークン規格として ERC-223 規格を採用した理由は、現在 Ethereum トークンの規格の中で最も一般的な ERC-20 規格に比べ、実利用における利便性を担保するためです。

ERC-223 規格は ERC-20 規格が抱えていた問題に対応した上位互換規格であり、大きく以下の特徴があります。

- ・ コントラクトへの送金にかかる手数料が ERC-20 に比べて安い
- ・ 意図しないコントラクトアドレスへの誤送金によるトークンの紛失を防ぐ

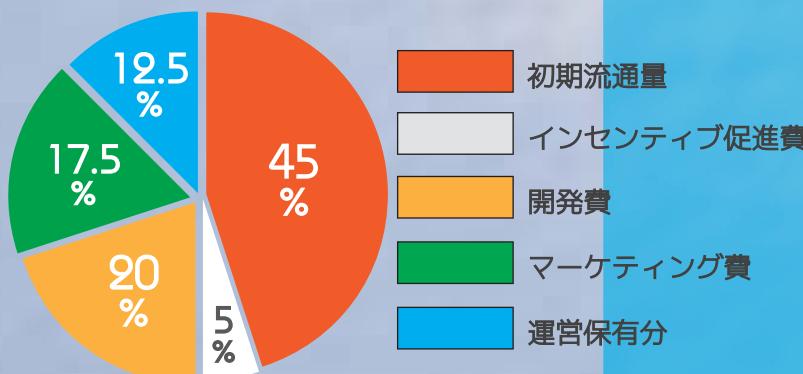
2018 年 6 月現在、ERC-223 規格は NANJCOIN、BANKERA、Experty、MobileGo などが採用しています。トークンへの ERC-223 規格の採用例はまだ少ないものの、ERC-20 規格対応ウォレットと互換性があることや前述の改善機能を持つことから、今後 Ethereum ベーストークンの主流になっていくと考えられます。

# TOKEN ALLOCATION

## ~トークンの割当~

トークンの総発行量は 200 億枚です。割当の内訳は以下の通りです。

- 初期流通量 90 億枚 (45%)
- インセンティブ促進費 10 億枚 (5%)
- 開発費 40 億枚 (20%)
- マーケティング費 35 億枚 (17.5%)
- 運営保有分 25 億枚 (12.5%)



## 第一次産業の活性化

普段私たちが手にする食材の価値は「コスト」や「品質」といった数値化できるものによって決まります。どれだけ生産者の想いが強く努力しても、それは現在の経済モデルではなかなか価値に反映されません。しかし反映されないこれらの要素が蔑ろにされれば、私たちに届く食材の質は下がり続けます。生産者のモチベーションが下がれば生産しない道を選ぶことも増えるでしょう。現に第一次産業が抱える人材不足の課題は、そのような側面にも原因があると考えられます。

私たちはブロックチェーン技術を応用することで今までにない「食」に関する情報をわかりやすく可視化し、生産者・消費者双方のメリットとなる事業展開の準備を進めています。

## 地域活性化支援

人口減少に伴う地域の過疎化は大きな社会問題となっています。行政もこの課題に対しては真剣に取り組んでいますが、組織構造上、予算や意思決定といった部分はでどうしても対応・解決するスピードが遅くなってしまいます。一方、地域の過疎化はそのスピードを大きく上回っているというのが現状です。どれだけ地域に強い想いがあり、魅力的な知恵を出しても、自治体の意向と異なれば実現することはありません。また、前述の通り行政が賛同しても予算が承認され、動き出すには時間がかかります。

YUKI は、そういった行政機能ではカバーしきれない側面を、仮想通貨特有の「非中央集権」という特徴を活かし、民意を反映した意思決定や、活動をスピーディーにサポートする役割を持つことができます。

地域の衰退と都会は無関係に思われがちです。しかし都会の機能を維持するためのサプライヤーは地域です。地域が活性化することは、都会の人々の生活への恩恵にもつながります。地域活性化支援は全ての国民にとって重要な事業です。

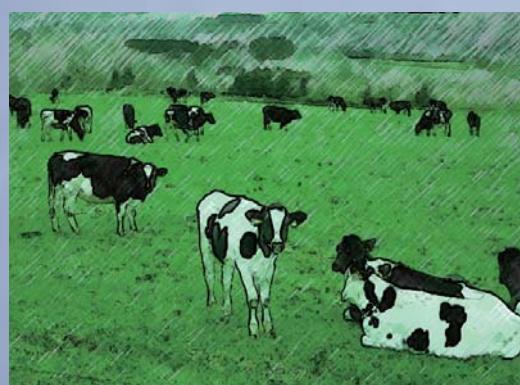
# Project Framework

## “YUKI プロジェクト事業構想 3 本の柱”

### 人材育成支援

YUKI の運営陣は学生発仮想通貨プロジェクト「Academic Points」立ち上げのコアメンバーで構成されています。我々は、仮想通貨の技術が新たな価値・可能性・未来を秘めているように、今を生きる学生の発想や個性も同様に価値・可能性・未来を秘めていると考えます。仮想通貨の技術がその特性を活かすことで社会に変革をもたらすと同様、学生の個性も適切な活かし方により、新たな社会を創出すると信じています。

YUKI は姉妹プロジェクトとして、Academic Points の活動を全面的に支援します。学生の持つポテンシャルを最大限に発掘・発揮し、より魅力的な人材として社会に送り込むことを目指します。我々は、学生発信の柔軟な発想を YUKI プロジェクトのビジネスに積極的に反映し、その結果として今まで想像し得なかったビジネスの創出を可能にします。



# YUKI Business Plan (1/4)

## Project 01

### "ブロックチェーン技術を活用した新しいトレーサビリティシステムの開発"

改ざんが実質不可能で履歴を遡ることのできるブロックチェーンは食品のトレーサビリティ（追跡可能性）と最も相性の良い活用方法です。現在義務化されているのは牛肉および米（加工品を含む）のみです。しかし、現在のトレーサビリティは「人間のモラル」に依存する要素が強く、また従来のような中央集権型データベース管理で導入するには膨大なコストがかかり、行政や大型規模の組織でのみ導入可能で、中小規模での独自導入は困難です。

ブロックチェーンを活用することにより、コスト低減による自主的かつ信頼性を担保した食の安全の証明に対するハードルが低くなるだけではなく、作物の種子や家畜の受精前の遺伝子源の流通経路や栽培される畑の環境まで網羅することが可能になります。例えば、遺伝子組み換え技術に関して現在のトレーサビリティではその種子が「遺伝子組み換えではない」として生産者が履歴に載せたとしても、種の源種までは遡れず、種子の入手過程において恣意的な操作が行われたとしてもそれを消費者が確認する術は存在しません。また、現在確認可能な情報は食材として店頭で購入できるものに限られており、飲食店が提供するものに関しては確認する術がないケースが大半です。

ブロックチェーンを用いた場合は品種開発から種苗生産、そして生産者が使用する種子までも遡って確認することが可能となります。

より信頼できる新たなトレーサビリティの実現は、アレルギー等、食に対して不安を持つ消費者等への安心感の担保につながり、ひいては生産者の価値、すなわち第一次産業の利益にも結び付きます。また、トレースバック（履歴を遡る）だけではなく、トレースフォワード（行き先を見届ける）も容易になるため、生産者と消費者との結びつきを強め、生産者のより高品質な農畜産物の提供意識を高めることができます。

ブロックチェーン型トレーサビリティであれば、対象者のニーズに合わせたわかりやすいインターフェースを備えた dApps（非中央集権型アプリケーション）を提供することが可能であり、学校における給食や食育といった分野にも活用が可能です。



# YUKI Business Plan (2/4)

## Project 02

### “地域に「価値」をついた「バリューフロンティア」プロジェクト”

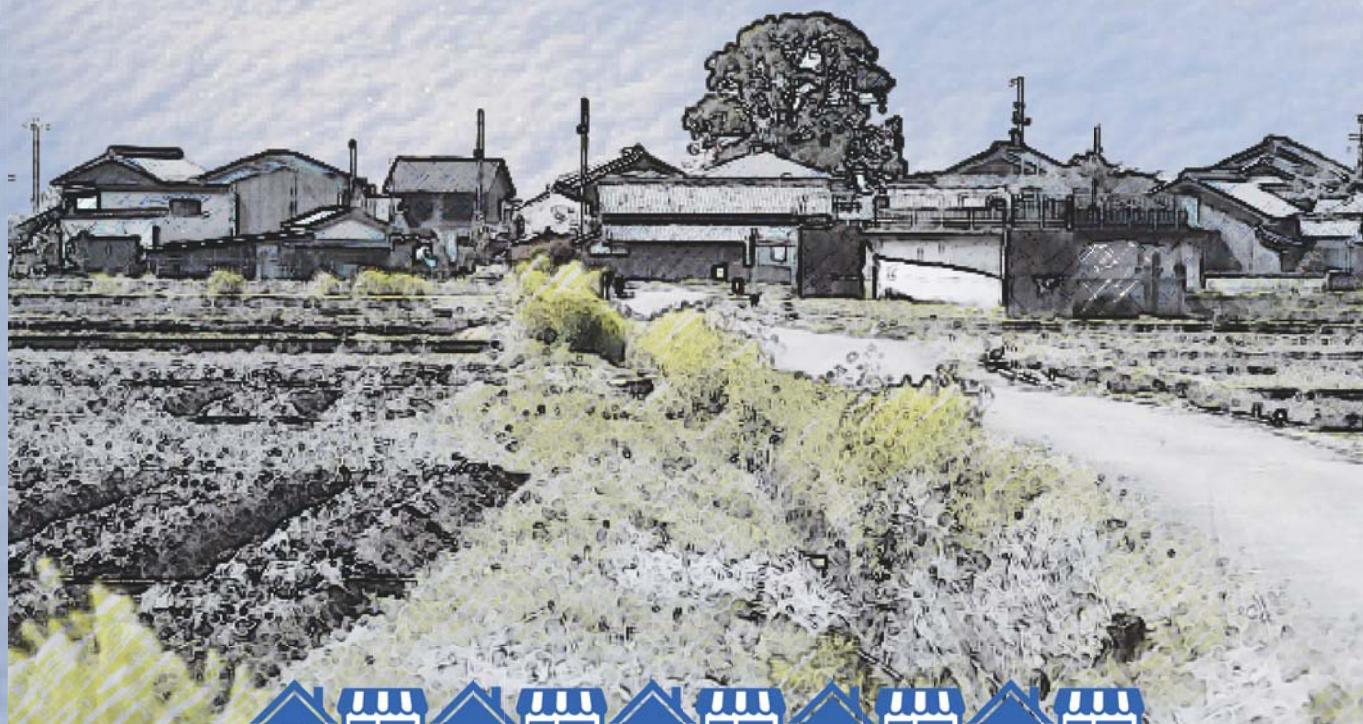
移住促進だけが地域活性化の手段ではありません。地域活性化の手段として行政が行っている取り組みとして「ふるさと納税」があります。

このモデルは地域に注目を集めるといった点において、ある程度成功したケースと考えられます。「ふるさと納税」を参考に、私たちは「地域」に「価値」をつける事に着目しました。

地域の魅力としての「価値」に投資をすることこそが真の「地域活性化」に役立ちます。

具体的には、特産品だけではなく、無形のアイデアをはじめとした「地域の様々な潜在価値」を地域側が提案し、YUKI のホルダーは興味ある「潜在価値」に投資します。旅行先に求める魅力を旅行者自身が作る、地域でしか知られていない「裏メニュー」の販売実現等、地域を挙げた一種のクラウドファンディングです。

私たち YUKI の運営は、そのコミュニケーションの仲介役としてのプラットフォームを展開します。そして、その先には、利用した双方がより身近に感じられ、相互利益が生まれるシステムを構築する予定です。



# YUKI Business Plan (3/4)

## Project 03

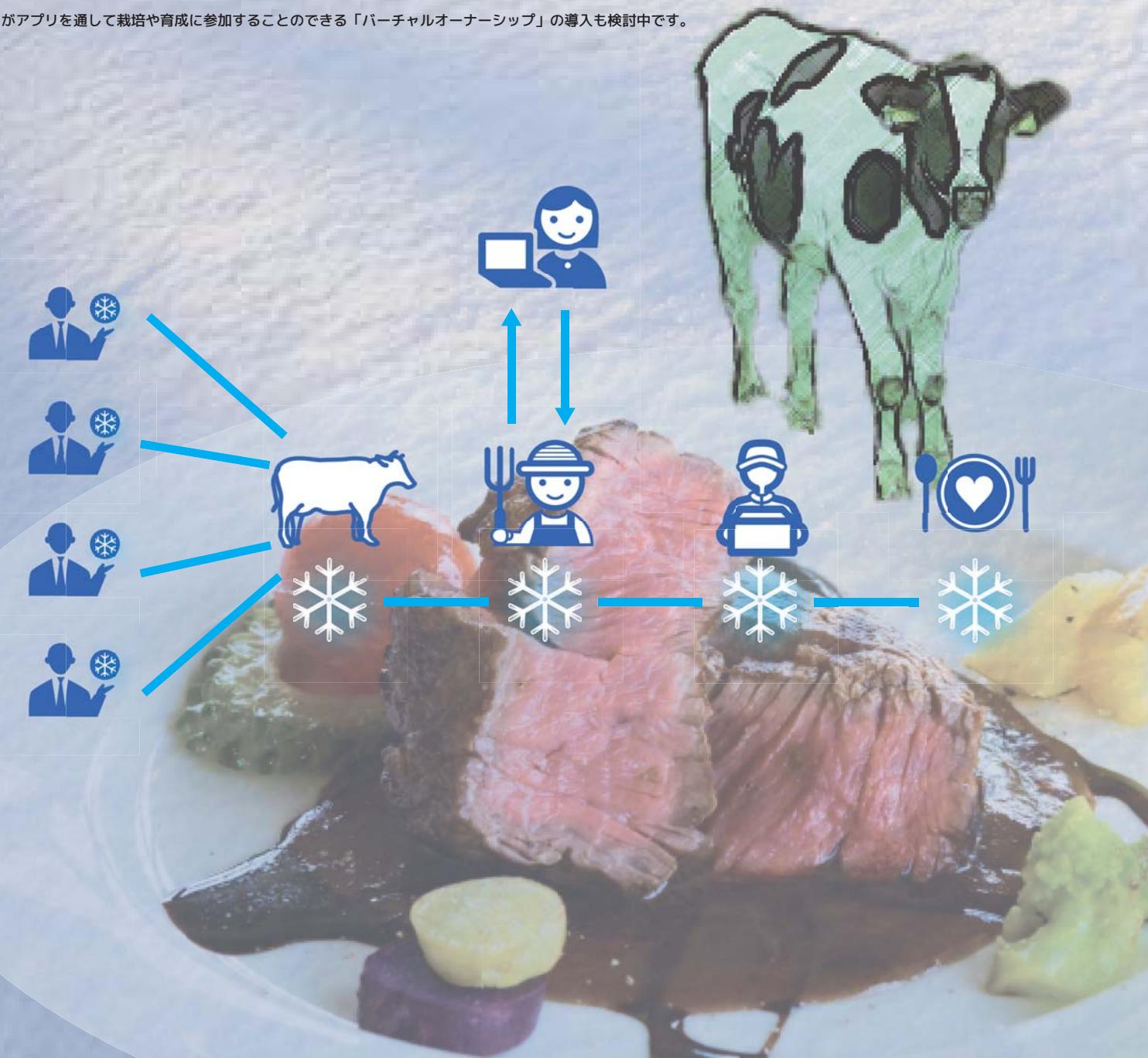
### “地域資源を活用した「ブランド牛育成」システム”

昨今、経営状態がいいにも関わらず、後継者不足により事業継続を断念する年配の牧場経営者が多く存在します。

私たち YUKI を運営する株式会社 Currency Design には牧場経営に精通しているメンバーも在籍することから、そのような牧場を新しい経営者に引き継ぎ、ブランド和牛の育成事業を遂行します。

この事業を通して新たな雇用機会を生みだすことにより、地域活性化にも繋がる win-win の関係を構築します。

その他の活用方法としては、競走馬のシェアオーナーのように消費者が共同で生産物を「生産前から」購入し、生産者とコミュニケーションを取りながら消費者がアプリを通して栽培や育成に参加することのできる「バーチャルオーナーシップ」の導入も検討中です。



# YUKI Business Plan (4/4)

## Project 04

### ホルダー参加型ビジネスの展開「リバーシブルビジネス」

YUKI を運営する株式会社 Currency Design は、ホルダーとのコミュニケーションを大切にし、ホルダーと共に YUKI を育てていきたいという想いがあります。基幹となる社会支援・地域連携型ビジネスを全国展開するだけではなく、ホルダーとのコミュニケーションによるビジネスプランの実現により、ホルダーが YUKI を通して社会を動かしていくけるような体制を構築します。

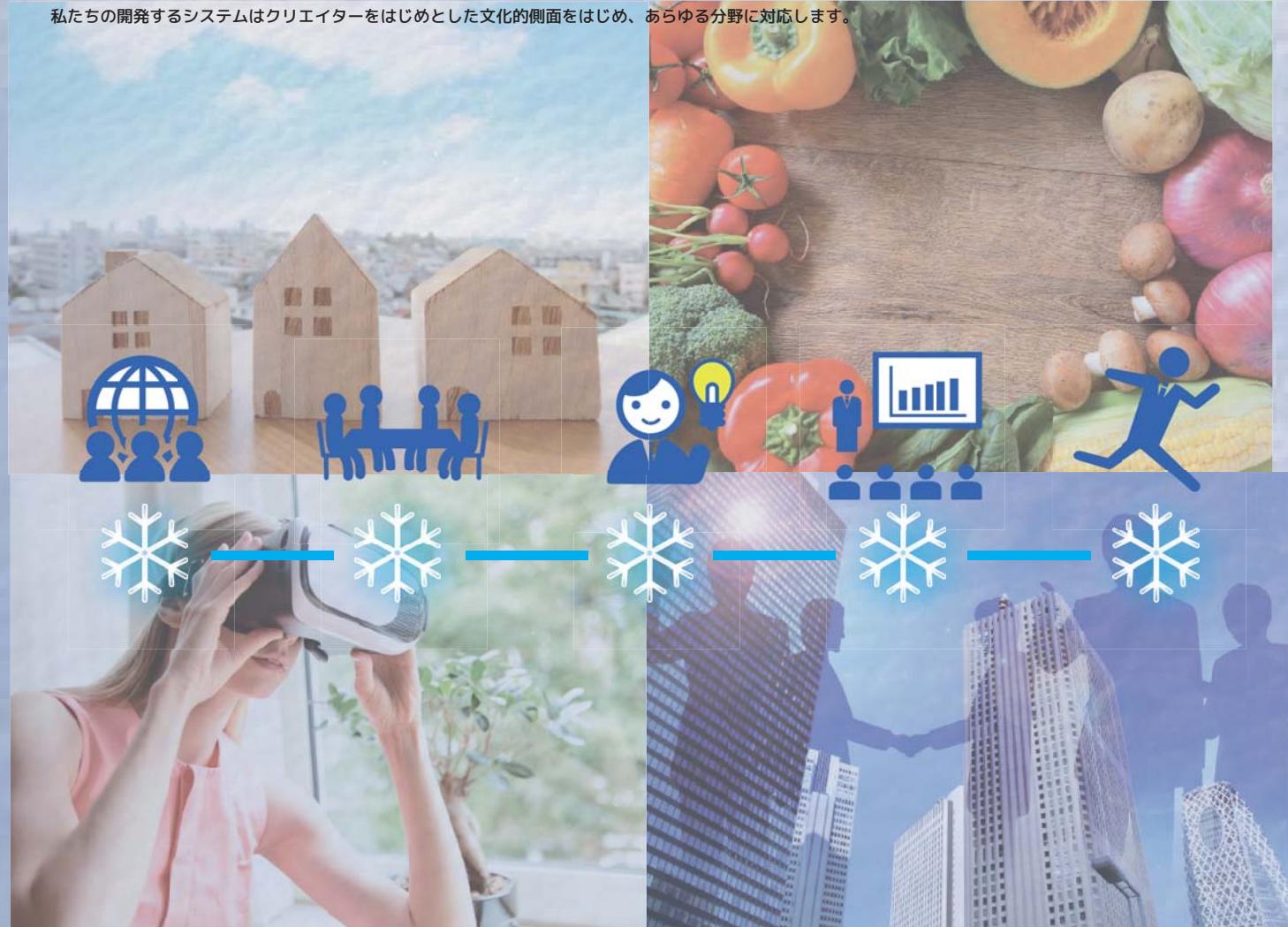
Discord 内でホルダーが求めるビジネスの中で、特に要望の強いものをビジネスプランとして採用することを積極的に検討します。そこで実現可能なものから順次構築・提供を行い、その結果に対するホルダーのアップグレード要望を随時フィードバックさせます。運営とホルダーが表裏一体となる「リバーシブルシステム」によるビジネス展開で、ホルダーに寄り添った持続的経営を進めていきます。

私たちは会社のスペックを YUKI ホルダーの要望に沿った形で向上させ、ビジネススタイルを確立していくたいと考えています。

私たちが提案するビジネスプラン 1 ~ 3 から YUKI のビジネスプランは社会・第一次産業・食の安全を専門としたプロジェクトに見えるかもしれません。

しかし、私たちのビジネス構想は特定のカテゴリに制限されたものではありません。

私たちの開発するシステムはクリエイターをはじめとした文化的側面をはじめ、あらゆる分野に対応します。



# HISTORY and ROADMAP

～これまでの歩み、そしてこれからのロードマップ～

2018.01

北海道大学の学生が Waves ベーストークン HUC (北大コイン) を発行

2018.01

地域飲食店がクーポンとして HUC を導入

学生発仮想通貨プロジェクト「AP (HUC)」のコンセプト

“新たな学生評価システムの開発”

“仮想通貨を用いた大学周辺地域の経済活性化および地域活性化”

2018.03

YUKI プロジェクト構想開始

2018.04

- 新聞掲載「仮想通貨で、ばんえい応援（十勝毎日新聞）」

- HUC と NANJ コミュニティ有志による北海道帯広市の「ばんえい競馬」レース協賛企画の実施

2018.05

全国拡大に伴い、HUC を「Academic Points」にリブランド

全国 21 大学の大学生が参加

2018.06

YUKI プロジェクト運営会社「Currency Design Inc.」設立

2018.06

- YUKI 公式サイト開設

- イーサリアムベーストークン「YUKI」の開発完了

2018.07

YUKI、取引所に初上場

2018 ~

- 提携企業の発表

- 複数取引所への上場

- 実利用に向けた YUKI 決済システムの開発

- ビジネス展開のための独自ブロックチェーンシステム開発

- 学生発仮想通貨 Academic Points と連携した仮想通貨および教育イベントの開催

2019 ~

新システムモデルの実証実験開始

2020 ~

YUKI プロジェクトサービスプラットフォームの全国・世界展開



## 【YUKI 運営会社】

株式会社 Currency Design (2018年6月設立)

本社所在地： 北海道 札幌市

主な事業： ブロックチェーンを活用した各種サービス、WEBサービス、  
第一次産業コンサルタント、企画および広報事業

株式会社 Currency Design は学生発仮想通貨「Academic Points」の中心運営  
メンバーにより設立されました。

役員は代表取締役の現役大学生を中心に、OB、元大手電機メーカー出身者、  
元国際協力機関スタッフ等で構成されています。

# Operation Background of YUKI

## 【アドバイザー】

石 靖士 (HN/ ハゲ先生)

NANJ 株式会社 CEO/CFO. NANJCOIN 運営

中・長期事業戦略や会計、法務を中心に担当。

北海道大学のOBであることをきっかけに、また地方活性化  
に対する想いに共感し YUKI のアドバイザーに着任。



X



下川 和人 (HN/ ツチノコ)

NANJ 株式会社 CIO. NANJCOIN 運営

Ethereum トーカンを中心に技術開発を行うトーカンエンジニア。  
YUKI の掲げる理念に賛同しトーカン開発アドバイザーに着任。

Let it snow.

Let it YUKI.



2018. White Paper V1.0